

令和6年度 租税教育に関する研究発表要項

山元町立山下第一小学校
教諭 森山 壱成

1 研究主題

税金への関心を高めるための中学年への指導の工夫
～第4学年 総合的な学習の時間「税金について考えよう」の学習を通して～

2 主題設定の理由

第4学年の児童は第3学年において、消防や警察についての学習をし、学校と同様にみんなのために働く場所は税金で建てられていることを学んだ。普段の生活を通して、「税金」という言葉は知っているが、どのように集められ、どのように使われているかなど、具体的な税金についての知識はほとんどない。断片的なニュースから必要ないところに使われていることや、何に使われているか分からなかったりするなどのゴシップ情報から税金を払うことに抵抗を感じている児童もいる。

これから多くの公共施設について学ぶ児童がさらに税金について学ぶことで、関連性を思い出し、税金の大切さについて実感できるものと考えた。自ら課題設定し、調べ、話し合い、発表することで税金への関心を高めることができると考え、本主題を設定した。

3 研究目標

児童が自ら課題設定し、調べたり、話し合ったりすることを通して、税金への関心を高めるための中学年の指導の工夫を探る。

4 研究方法

- (1) 税金に関する意識調査を行う。
- (2) 学習の導入として税金に興味関心をもたせられるよう、外部講師のもと「租税教室」を行う。
- (3) 租税教室や普段の生活、公共施設について学んだことを基に児童自らが疑問に思ったことや関心のあるものから、調べてみたい課題をグループごとに設定させる。
- (4) 課題に沿ってインターネットや本、資料等を使って調べ活動に取り組みせ、税金についての知識を身に付けさせる。
- (5) p4c（探究の対話）を通して税金についての関心・知識・大切さについて考えを深められるようにする。
- (6) 調べたテーマに沿ってスライドにまとめ、3年生に向けた発表をさせる。
- (7) 税金に関する意識調査を行い、変容をみる。

5 研究計画

令和5年	5月26日	事前意識調査
	6月12日	租税教室
令和6年	1～2月	課題設定・調べ活動・まとめ
	3月21日	発表会
	3月22日	事後意識調査

6 研究の概要

(1) 児童の実態：事前意識調査（令和5年5月26日実施 4年1組10名）

質問	回答（複数回答可）
① 税金はどのようにして集められていますか。	分からない（4名） 募金（1名） 消費税（3名） 住民税（1名） 役場で集める（1名）
② 税金は何に使われていますか。	マイナンバーカードの装置（1名） 消防（1名） 地震などの復旧（1名） 教科書（1名） 警察（1名） 家の人の仕事の給料（1名） 世界のため（2名） 病院などの施設（1名） 国や市の活動支援（1名） 分からない（4名）
③ 税金を納めたいですか。	納めたい（0名） どちらかというとなめたい（4名） どちらかというとなめたくない（5名） 納めたくない（0名） 未回答（1名）
④ その理由は何ですか。	<どちらかというとなめたい> 税金がないとだめだから（1名） 日本と世界をより良くするため（1名） 警察と消防にお金を取られてしまうから（1名） 国や市のため（1名） <どちらかというとなめたくない> 何に使われているのか分からないから（1名） 無駄になるから（2名） お金がなくなるから（1名） 未回答（1名）
⑤ 税金はどのように使うとよいと思いますか。	食品（1名） 電気（1名） 市や町の復興（2名） 病気の人（1名） 国や国民のため（5名）

【考察】

①の税金の集め方については、半数の児童が分からないこと、知っていても部分的な言葉を回答しており、集め方（納税方法）については、ほぼ分からないと言える。

②の税金の使い道として、地震などの災害の復旧や、教科書の配布、警察や消防の施設の設置や運営などを挙げている児童もいる一方、会社の給料も税金から出されていると考えている児童もいた。

③・④の納税については、「どちらかというとなめたい」は4名、「どちらかというとなめたくない」は5名が回答した。「納めたい」「どちらかというとなめたい」の理由として、国や市をよりよくしたい、税金は必要という意識があるためではないかと考えられる。また、「どちらかというとなめたくない」「納めたくない」と回答した理由としては、何に使われているのかを具体的に理解していないことや、税金を払うことを無駄に感じたり、自分のお金がなくなるという感覚になったりしているからではないかと考えられる。

⑤では、税金を国や国民の全員のために使って欲しいという思いをもっている児童が半数以上いることが分かった。

(2) 指導計画

次	段階	学習内容	時数
	事前意識調査	・授業前の税金について知っていることを書く。	
1	税金について知ろう	「税金について学ぼう」	1
2	税金について調べよう	① 課題設定を行う ・租税教室や普段の生活、公共施設の学習について振り返る。 ・税金について疑問に思ったことや、関心のあるものについて、グループ毎に課題を設定する。	2
		② 課題について調べ活動に取り組む ・設定した課題についてインターネット等を用いてグループで調べる。	3
		③ 税金への関心をより高める ・p 4 c (探究の対話)を活用して、税金についての関心・知識・大切さについて考えを深める。	1
		④ まとめ ・調べたことを課題に沿ってスライドにまとめる。	2
3	調べた事を伝えよう	・3年生に向けて、調べたことを発表する。	1
	事後意識調査	・授業後の税金について、知っていることを書く。	

(3) 実践の概要

【第1次】「税金について知ろう」(6月12日)(1時間)

仙台南間税会の鈴木隆先生に來校していただき、スライドで税金の種類や税金は必要かという問いが出され、児童は生活の中に税金がどう関わるかを考えた。DVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」では、税金がなくなったら世の中がどうなるかについて知ることができた。そして、身の回りにある多くの物にも税金が使われていることを学ぶことで、税金への関心を高めると共に、その必要性を考えるきっかけとなった。

《租税教室の様子》



<税金の種類について>



<1億円が税金>

【第2次】「税金について調べよう」（8時間）

① 課題設定を行う

租税教室や普段の生活、公共施設について振り返ることで、税金について知っていることを発表させたり、租税教室のことを想起させたりし、疑問に思ったこと、もっと詳しく知りたいことを発表させ、グループ毎に課題を設定した。

Aグループ課題	くらしをよくするためにどんな種類の税金があるのか。
Bグループ課題	くらしをよくするためにどのようなことをしているのだろうか。また、わたしたちにできることはあるのだろうか。
Cグループ課題	国はどのように税金をどのように使っているのか。

② 課題について調べ活動に取り組む

課題に沿って調べ学習を行った。租税教室で使用した資料やタブレット端末を活用しインターネットで調べた。



<租税教室の資料>



<グループでの話し合い>

③ 税金への関心をより高める

p 4 c（探究の対話）の手法を用いて調べ学習で知ったことや疑問に思ったこと、大切にしたいこと等について話し合った。「税金はみんなのため」や「よりよい生活を送れるようにするため」だけでなく、具体的に学校の用具や、補助金など身近にあるものに税金が使われていることに注目させて話し合わせた。「税金があることでよりよい生活を送ること」と具体的に考えたり、税金についての考え方をより深くしたりすることができた。



< p 4 c を用いた話し合い >



<どんな意見でも受け入れる>

④ まとめ

タブレット端末を使ってスライドにまとめた。3年生に税金について分かりやすく伝えるためにクイズを入れたり、挿絵を入れたりするなど工夫をしてスライドを作った。3年生に伝えるという目的意識をもたせ、より明確で分かりやすい言葉にして伝えようとする中で、より身近な税金について考えることができるようになった。

【第3次】調べた事を伝えよう（1時間）

調べたことを発表した。他グループの発表を聞く中で、自分のグループで調べたテーマ以外の税金の役割について考える機会となり、より関心が高まった。

《発表会の様子》



<税金の使われ方についての発表>



<税金の種類についての発表>

(4) 発表会後の4年生の感想

税金は福祉にも関係していることがわかりました。

税金は福祉にも関係していることがわかりました。

税金が安心・安全のために使ったり、豊かな社会にするために使ったりしていることがわかりました。

生活をゆたかにするために税金を納めていることがわかりました。

(5) 事後意識調査 (令和6年3月22日実施 4年1組10名)

質問	回答 (複数回答可)
① 税金はどのようにして集められていますか。	お店などいろいろなところ集められている (2名) 住民から集められている (1名) 国へ集められている (1名) 所得税 (1名) 消費税 (3名) 固定資産税 (2名) たばこ税 (4名) 酒税 (4名) 入湯税 (1名) 宿泊税 (1名) 住民税 (1名) 自動車税 (1名) 募金 (1名)
② 税金は何に使われていますか。	国や県を豊かにするために使われている (7名) 子育て支援 (1名) 病院 (2名) 公立学校 (3名) 災害支援 (1名)
③ 税金を納めたいですか。	納めたい (0→6名) どちらかというとなめたい (4→3名) どちらかというとなめたくない (5→1名) 納めたくない (0→0名)
④ その理由は何ですか。	<納めたい・どちらかというとなめたい> 納めないと学校や公園を作ることができなくなってしまうから (1名) 国を豊かにしたいから (5名) 困っている人のために使って欲しいから (1名) 国民の暮らしをよくするため (3名) <どちらかというとなめたくない> 国を豊かにすることは分かったが、大人だけ納めても良いと思う (1名)
⑤ 税金はどのように使うとよいと思いますか。	社会をよりよくするため (1名) 全ての人が不自由な思いをしなくらしを送るため (5名) 国を豊かにするため (5名) 道路 (1名)

7 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・意識調査より税金の集め方について、かなり詳しく理解できていることが①の回答より分かった。②の回答からは、税金の使われ方について、「国や県を豊かにするために使われている」という考えが事前意識調査より非常に多くなった。③の納税への意識についての回答からは、ほぼ全員が納めることに意識が向いていたことが分かった。学習により税金への意識が高くなっていると考えられる。
- ・児童が自ら税金についての課題を設定し、調べたことをまとめ、下級生へ発表することで、税金への理解を高めることができたと考ええる。
- ・p 4 cを活用し、税金についての対話を行ったことで、児童が税金について自分の言葉で根拠をもって伝え合った。税金についての考えをより深めることができた。

(2) 課題

- ・普段の生活で税金を意識する機会が少ないため、生活経験を生かしての指導では関心を高めることができなかった。
- ・家庭と連携して調べ学習に取り組みさせるなど、税金について考える場を増やすことでもっと多くの気づきを得ることができたのではないかと考える。